

法政大学大学院
社会学研究科 社会学専攻 博士後期課程

研究業績目録

2020年3月31日現在

目次

兼子 諭	(1)
山口 墨	(3)
高橋誠一	(5)
山田唐波里	(7)
松下峻也	(8)
鰐部行崇	(9)
木暮美菜	(10)

ふりがな 氏 名	かねこ さとし 兼子 諭
専攻	社会学理論、社会学史、文化社会学、市民社会論
	2004 年 3 月 社会学 修士学位取得 (法政大学)
	2018 年 9 月 社会学 博士学位取得 (法政大学)
所属学会	

学歴	
1996年 3月	茨城キリスト教学園高等学校 卒業
2001年 3月	法政大学社会学部社会政策科学科 卒業
2004年 3月	法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻修士課程 修了
2011年 3月	法政大学大学院社会科学研究科社会学専攻博士後期課程 満期退学
年 月	
職歴	
2008年 4月	法政大学社会学部 社会学入門A ティーチング・アシスタント
2009年 4月	法政大学社会学部 社会学理論B I & II 兼任講師
2011年 4月	法政大学現代福祉学部 社会学兼任講師
2011年 4月	法政大学社会学部 専門演習II 兼任講師
2012年 7月	法政大学大原社会問題研究所 兼任研究員
2014年 4月	法政大学社会学部 社会学理論B I & II 兼任講師
2015年 4月	法政大学社会学部 社会学史兼任講師
2015年 4月	法政大学社会学部 専門演習II・III 兼任講師
2016年 4月	法政大学社会学部 社会学入門B 兼任講師
2016年 4月	法政大学社会学部 基礎演習 兼任講師
2018年 4月	法政大学大原社会問題研究所 嘱託研究員
2019年 4月	法政大学社会学部 社会学入門A 兼任講師
2020年 9月	東京都立大学人文社会学部 社会学特殊講義 兼任講師

著書
金井明人、土橋臣吾、津田正太郎編『メディア環境の物語と公共圏』法政大学出版局(2章「新聞メディアにおける人種問題の変遷—トレイヴオン・マーティン射殺事件報道の分析から—」を担当)
学術論文(うち査読付き 5編)
「多文化主義」における理論的問題の解決へ向けて—テイラー、キムリッカ、ホリンジャーの検討をもとに—『社会・経済システム』27号、2006年、141-53頁(査読付き)
「パーソンズ近代社会論の再読—社会的共同体の多面的包摂という観点を中心に—」『法政大学大学院紀要』62号、2008年、99-106頁
「パーソンズ社会理論の市民社会論への貢献—「影響力」概念とその批判的継承についての検討—」『社会学史研究』33号、2011年、101-15頁(査読付き)

「タルコット・パーソンズの日本社会学における受容過程の分析－従来のパーソンズ受容の認識に対する『社会学評論』調査による応答」(共著者:徳安彰)『社会志林』58(4)、2012年、143-62頁
「公共圏論のパースペクティブの刷新－アレグザンダー「市民圏」論の検討をもとに－」『社会学評論』65(3)、2014年、360-73頁(査読付き)
『市民社会の文化社会学－Alexander市民圏論の検討を中心に－』博士論文(法政大学大学院社会学研究科社会学専攻)、2018年、総計160頁(査読付き)
「トラウマ概念の社会学的応用とその意義－文化的トラウマ論の検討から－」『社会学評論』69(4)、2019年、453-67頁(査読付き)
「アレクサンダー市民圏論の検討－文化社会学からの市民社会論の展開とその意義について－」『社会学史研究』、2019年、41号・5-21頁(招待有り)
学会発表・招待講演
「パーソンズ「社会的共同体」論の検討－現代社会の考察の準拠概念としての「包摂」と「排除」概念の提起のために－」第77回日本社会学会大会(熊本大学)、2004年
「「統合」と「包摂」－「多文化」社会の存立原理の考察－」第78回日本社会学会大会(法政大学)、2005年
「多文化的な社会システムにおける幸福な共生の可能性」第24回社会・経済システム学会大会(関西学院大学)、2005年
「パーソンズ近代社会論の再構成－近代社会の多元的構成という観点から－」第47回日本社会学史学会大会(盛岡大学)、2007年
「社会システム理論における市民社会論の定位－アレクサンダーの「2つの」社会理論の接合性・関連性の検討をもとに－」第27回社会・経済システム学会大会(早稲田大学)、2008年
「戦争の文化社会学－文化／意味システム理論の応用の試みとして－」第28回社会・経済システム学会大会(関西大学)、2009年
「パーソンズ社会理論とその継承の市民社会論的意義の検討－社会的共同体論、特に影響力概念の継承という観点から－」第50回日本社会学史学会記念大会(奈良女子大学)、2010年
「公共圏・市民社会の文化社会学－アレクサンダー文化社会学の検討をもとに－」第51回日本社会学史学会大会(京都橘大学)、2011年
「社会統合論の系統的再検討－パーソンズ影響力論の理論的モチーフの継承をめぐる－」第56回日本社会学史学会大会(東京女子大学)、2016年
「Alexander社会理論の現在－文化社会学からの市民社会論の展開－」第58回日本社会学史学会大会(山梨大学)、2018年(招待有り)
「「トランプ現象」の文化社会学－アレクサンダーらによる2016年のアメリカ大統領選挙の分析の検討から－」第92回日本社会学会大会(東京女子大学)、2019年
研究報告書・翻訳など
「メディア・イベント文化社会学－ジェイコブ・ロドリゴ・キング事件とロス・アンジェルス暴動に関する報道分析 検討－」(法政大学社会学部科研究プロジェクト基盤研究A報告書『公共圏創成と規範理論探究－現代的 社会問題実証的研究を通して－ 論文集(Ⅱ)』研究代表者 船橋晴俊、2009年、115-28頁)
「文化的トラウマ論における公共圏位置－アレクサンダーとギーゼンホロコースト論検討を中心に－」(法政大学社会学部科研究プロジェクト基盤研究A報告書『公共圏創成と規範理論探究－現代的 社会問題実証的研究を通して－ 論文集(Ⅳ)』研究代表者 船橋晴俊、2010年、36-53頁)
特記すべき事項
特になし

ふりがな	やまぐち るい		
氏名	山口 塁		
専攻	産業社会学、人的資源管理論 日本企業における外国人労働者の活用		
	2009年	3月	社会学 修士学位取得 (立教大学)
	2020年	3月	社会学 博士学位取得 (法政大学)
所属学会	日本社会学会、移民政策学会、日本労務学会		

学歴			
1998年	3月	香川県立高松高等学校 普通科	卒業
2003年	3月	神戸大学 経営学部 経営学科	卒業
2009年	3月	立教大学大学院 社会学研究科 社会学専攻 博士課程前期課程	修了
2020年	3月	法政大学大学院 社会学研究科 社会学専攻 博士後期課程	修了
職歴			
2012年	4月	立教大学社会情報教育研究センター リサーチアシスタント	(2016年3月まで)
2013年	4月	法政大学社会学部 兼任教員	(「産業社会学」担当、2014年3月まで)
2013年	4月	(独)労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員	(2017年度より研究助手、2020年3月まで)
2015年	4月	法政大学通信教育部 兼任教員	(「人的資源管理論」担当、現在に至る)
2016年	4月	文京学院大学人間学部 非常勤講師	(「産業社会学」担当、現在に至る)
2016年	10月	法政大学キャリアデザイン学部 兼任教員	(「キャリア研究調査法:質的調査」担当、2017年9月まで)
2017年	4月	法政大学社会学部 兼任教員	(「基礎演習」担当、2018年3月まで)
2019年	10月	法政大学キャリアデザイン学部 兼任教員	(「キャリア研究調査実習D:仕事とビジネスの質的研究」担当、現在に至る)

著書	
なし	
学術論文(うち査読付き4)	
「若年小規模事業主の労働世界——その選択過程と働き方、仕事意識を中心に」立教大学学位論文、2009年3月	
「岐阜アパレル産業における労働者確保施策の変遷——集団就職、家内労働から技能実習制度へ」、法政大学比較経済研究所ワーキングペーパーNo.176、2013年4月、共著(上林千恵子・山口塁)	
“Can Japanese Firms Get Along with Highly Skilled Foreign Workers?: Intentions among Former International Students to Settle and Work in Japan” 法政大学比較経済研究所ワーキングペーパーNo.194、2015年9月、共著(山口塁・前田豊)	
「日本企業における留学生人材の活用と労働市場での位置づけ」、法政大学比較経済研究所ワーキングペーパーNo.200、2016年3月	
「技能実習生受け入れに対する自治体の支援と『多文化共生』——埼玉県川口市での取り組み事例から」、『移民政策研究』10号、2018年5月、pp. 95-110、査読有	
「非正社員の一類型としての技能実習生へのニーズ——製造中・大企業での活用事例からの検討」、『文京学院大学人間学部研究紀要』20号、2019年3月、pp.93-105、査読有	
「技能実習制度へのニーズの所在とその隘路——『2つの二重構造』との関連を手がかりに」、『生活協同組合研究』522号、2019年7月、pp.21-28、依頼有	
「養成訓練から外国人技能実習制度へ——技能実習制度の経路依存性にかんする一考察」、『文京学院大学人間学部研究紀要』21号、2020年3月、pp.119-134、査読有	
「技能実習制度の活用と企業内雇用ポートフォリオの国際化——企業アンケート調査の二次分析から」、『社会志林』66巻4号、pp.211-228、査読有	
「技能実習制度の性格とその変化の方向——2つの二重構造との関連を手がかりに」、法政大学学位論文、2020年3月	

学会発表・招待講演
「高度外国人材の供給源としての留学生——就職を目的として入国した高度外国人材との比較から」第87回日本社会学会大会、一般研究報告、神戸大学、2014年11月
「高度外国人材の日本への定着志向——留学生人材を事例にして」、第59回数理社会学会大会、萌芽的セッション(ポスター報告)、久留米大学、2015年3月、共同報告(山口壘・前田豊)
「技能実習生受け入れに対する自治体の支援と『多文化共生』——埼玉県川口市を事例として」移民政策学会 2017年度年次大会、自由報告、成城大学、2017年5月
「人材確保と外国人研修・技能実習制度——外国人研修生受け入れ先進地域の経験から考える」日本社会学会 第90回大会、研究活動委員会企画テーマセッション(移民受け入れを考える)、東京大学、2017年11月
「労働力から人材へ?——製造中・大企業における新しい技能実習制度活用見通しの検討」移民政策学会 2018年度年次大会、自由報告、東京大学、2018年5月
「職場における能力開発についての管理職の評価・認識をめぐる分析」日本労務学会 第48回全国大会、九州産業大学、自由論題報告、2018年7月、共同報告(山口壘・藤本真)
「技能実習制度の活用と企業内雇用ポータルフォリオの国際化——企業アンケート調査の二次分析から」移民政策学会 2019年度年次大会、自由報告、立教大学、2019年5月
研究報告書・翻訳など
「非典型雇用の『典型化』現象と仕事志向にかんする一考察」立教大学大学院社会学研究科『立教大学社会学研究科年報』17号、pp. 44-55、2010年3月、研究ノート
「Japanese Workplaces in Transition: Employee Perceptions (Hendrik Meyer-Ohle)」、立教大学大学院社会学研究科『立教大学社会学研究科年報』18号、pp.73-74、2011年3月、書評
「戦後岐阜アパレル産業における労働力集積・確保の動向」上林千恵子・山口壘編、『中京地区における外国人技能実習生受け入れの実態(法政大学社会学部社会調査実習報告書)』pp.87-111、2012年3月、報告書論文
「高度外国人材の供給源としての留学生——就職を目的として入国した高度人材との比較を中心として」上林千恵子・山口壘編、『高度外国人材の受け入れと日本企業の対応(法政大学社会学部社会調査実習報告書)』pp.39-60、2014年3月、報告書論文
「論文Today 第三次産業革命下におけるスキルとそれに対する支払いについて」『日本労働研究雑誌』646号、pp.96-97、2014年5月、書評
「第IV部 機関における取組みと課題——事例調査レコード」(独)労働政策研究・研修機構編、『求職者支援制度に関する調査研究——訓練実施機関についての調査・分析』労働政策研究報告書No.163、2014年5月、pp.173-258、共著(藤本真・山口壘・小川豊武)、執筆担当者
「JEC連合 大星ビル管理労働組合」「私鉄総連 越後交通労働組合」、日本労働組合総連合会非正規労働センター、『パート・有期契約労働者等 組織化・処遇改善 取り組み事例集』pp.38-41、pp.42-45、2015年10月、執筆協力者
「均衡処遇と『募集と定着』を実現するための人事制度の構築——クレディセゾン労働組合」(独)労働政策研究・研修機構編、『非正規労働者の組織化と労働組合機能に関する研究』資料シリーズNo.174、pp.184-200、2016年5月、執筆担当者
「パネルディスカッション・討議概要」『日本労働研究雑誌』679号、pp.3-8、2017年2月、解説
「川口市における技能実習生の受け入れと多文化共生——調査結果の概括」上林千恵子・山口壘編、『技能実習生の受け入れと地域の多文化共生——埼玉県川口市の事例から(法政大学社会学部社会調査実習報告書)』pp.3-22、2017年3月、報告書論文
「技能実習制度は人材選別機能を発揮できるか——小池和男『非正規労働』を考える』から」、法政大学大学院社会学専攻委員会『社会研究』47号、pp.7-18、2017年3月、研究ノート
「日本フランチャイズチェーン協会」、「日本専門店協会」(独)労働政策研究・研修機構編、『対人サービス職等の分野における能力評価の試み——業界団体等の取り組みを中心に』資料シリーズNo.193、pp.8-20、pp.49-54、2017年3月、執筆担当者
「上司による部下への能力開発支援の現状と課題——時間のとれなさ、知識とノウハウ、『関心のうすさ』」(独)労働政策研究・研修機構編、『日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理』労働政策研究報告書 No.196、pp.85-117、2017年3月、執筆担当者
「職場における能力開発についての管理職の評価・認識をめぐる分析」『日本労務学会第48回全国大会研究報告集』、2018年7月、pp.299-306、共著(山口壘・藤本真)
「入管法改正論議と技能実習制度」『建設労働のひろば』109号、2019年1月、pp.39-43、解説、招待有
「第II部 資料」(独)労働政策研究・研修機構編、『若年者の離職状況と離職後のキャリア形成II(第2回若者の能力開発と職場への定着に関する調査 ヒアリング調査)』資料シリーズNo.221、pp.47-353、共著(岩脇千裕・小黒恵・金崎幸子・清原悠・小杉礼子・千葉将希・山口壘 ※50音順)、執筆担当者
特記すべき事項
なし

ふりがな 氏名	たかはし せいいち 高橋 誠一
専攻	社会学、国際社会学
	2008年 3月 社会学 修士学位取得 (法政大学)
	年 月 学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会、移民政務学会

学歴	
2004年 3月	法政大学社会学部社会政策科学科卒業
2006年 4月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程入学
2008年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻修士課程修了
2008年 4月	法政大学大学社会学研究科社会学専攻博士後期課程入学
2017年 3月	法政大学大学院社会学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学
職歴	
2009年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当、2011年3月まで)
2010年 4月	日本学術振興会特別研究員(DC2)(2012年3月まで)
2012年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当、2013年3月まで)
2012年 10月	法政大学サステナビリティ研究機構リサーチアシスタント(2013年3月まで)
2013年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「政策研究実習」担当、2014年3月まで)
2013年 4月	川崎市外国人市民施策専門調査員(現在に至る)
2014年 4月	法政大学大学院グローバル化と移民問題研究所特任研究員(現在に至る)
2016年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、2017年3月まで、「国際社会学Ⅰ」担当、2017年9月まで)
2017年 9月	法政大学社会学部兼任講師(「国際社会と民族」担当、2018年3月まで)
2018年 4月	法政大学社会学部兼任講師(「基礎演習」担当、現在に至る)
2019年 4月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校社会福祉専攻科非常勤講師(「社会理論と社会システム」担当、現在に至る)
2019年 4月	東京家政学院大学現代生活学部生活デザイン学科非常勤講師(「多文化共生」担当、現在に至る)

著書	
宮島喬・吉村真子編『現代社会研究叢書7 移民・マイノリティと変容する世界』法政大学出版局、2012年(第9章「クルド問題をめぐる公共圏とその変容——在外クルド人の展開とトルコ国内の変化に着目して」を分担執筆、pp.229-25)	
渋谷淳一・本田量久編『21世紀国際社会を考える——多層的な世界を読み解く38章』旬報社、2017年(第Ⅱ部第5章「移民の統合をめぐる問題——イギリスを中心に」を分担執筆、pp.126-35)	
学術論文(うち査読付き1編)	
『「クルド・ネイション」の構築と『在外クルド人』——統合と分化／差異化をめぐる諸相』修士学位論文、2008年	
『ネイションとインターネット』法政大学大学院『法政大学大学院紀要』第62号、2009年、pp.89-98	

「〈他者〉の統治とシティズンシップ——包摂／排除のメカニズムとそのグレーゾーンをめぐって」法政大学社会学部学会『社会志林』第57巻4号、2011年、pp.253-268
「移民の統合と排除——イギリスにおける市民的統合の現状、課題と限界」『大原社会問題研究所雑誌』733号、2019年、pp.40-62
「イギリスにおける実質的シティズンシップの保障とその今日的課題——ボランティア・コミュニティ組織をめぐる政治／政策に着目して」『移民政策研究』第12号、2020年（掲載決定）（査読あり）
学会発表・招待講演
「1980年代以降におけるクルド人の『ネイション』形成に関する一考察——脱領域的な『ネイション』の形成と言語的多様性に着目して」日本社会学会第81回大会、於東北大学、2008年11月
「クルド人の〈不確か〉なナショナル・アイデンティティに関する考察——ネイションをめぐる主観的自己理解／客観的定義の二重性と再帰性」日本社会学会第82回大会、於立教大学、2009年10月
「ドイツにおける在外クルド人のアイデンティティ理解と権利要求——ナショナル・アイデンティティの境界と領域をめぐって」日本社会学会第83回研究大会、於名古屋大学、2010年10月
「ネオリベラルな統合モデルにおける移民コミュニティの位置づけに関する一考察——イギリスにおけるクルド人コミュニティを事例として」移民政策学会2011年度冬季大会、於名古屋市立大学、2011年12月
研究報告書・翻訳など
【報告書】『「クルド人」と『公共圏』——『在外クルド人』の展開と分断横断的なメディア空間の登場』（科学研究費補助金研究成果中間報告書、船橋晴俊編『公共圏の創成と規範理論の探究——現代的社会問題の実証的研究を通して 論文集（I）』、研究代表者：船橋晴俊、2008年、pp.101-117）
【報告書】「トルコにおけるマイノリティ問題としての『クルド問題』——EU加盟へむけた『国内改革』と残された課題」（科学研究費補助金研究成果中間報告書、吉村真子編『グローバル化における移民・マイノリティ・公共圏』、研究代表者：船橋晴俊、2010年、pp.138-148）
【調査報告書】『川崎市外国人市民意識実態調査報告書』川崎市、2015年
【調査報告書】『川崎市外国人市民意識実態調査（インタビュー調査）報告書』川崎市、2016年
【翻訳】ロジャース・ブルーベイカー著、佐藤成基・高橋誠一・岩城邦義・吉田公記編訳『グローバル化する世界と「帰属の政治」——移民・シティズンシップ・国民国家』明石書店、2016年（第5章「同化への回帰か？——フランス、ドイツ、アメリカにおける移民をめぐる視座の変化とその帰結」と第7章「分析のカテゴリーと実践のカテゴリー——ヨーロッパの移民諸国におけるムスリムの研究に関する一考察」を担当、pp.200-231, 288-301）
【調査報告書】『川崎市外国人市民意識実態調査報告書』川崎市、2020年
特記すべき事項

ふりがな 氏 名	やまだ からはり 山田 唐波里
専攻	社会学
2015年 3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
年 月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本社会学会・関東社会学会

職歴	
2015年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当, 2016年3月まで)
2016年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当, 2017年3月まで)
2017年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会学入門B」担当, 2018年3月まで)
2019年 4月	法政大学社会学部ティーチングアシスタント(「社会調査実習」担当, 2020年3月まで)
年 月	

学術論文(うち査読付き 編)
「人口を統制すること——日本社会における人口概念の展開——」修士学位論文, 2015
「人口概念の歴史的基層——近代日本における人口概念の編成過程」『社会志林』64巻2号, 2017年, pp57-73(査読あり)
「近代的統治戦略としての〈均衡化〉——『人口方程式』の編成と政策論への導入」『社会学評論』70巻2号, 2019, pp128-45(査読あり)
学会発表・招待講演
「人口をめぐる知——日本社会における人口概念の展開」日本社会学会第88回大会, 於早稲田大学, 2015年9月
「近代的統治戦略としての〈均衡化〉——『人口方程式』の編成と政策論への導入」日本社会学会第90回大会, 於東京大学, 2017年11月
「『社会的なもの』と人口をめぐる議論——社会政策における近代的人口論の位置づけ」日本社会学会第92回大会, 於東京女子大学, 2019年10月

ふりがな 氏 名	まつした しゅんや 松下 峻也		
専攻	メディア研究 歴史社会学		
2 0 1 6	年 3	月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	日本マス・コミュニケーション学会 日本社会学会		

学歴			
2014年	3月	法政大学社会学部メディア社会学科	卒業
2014年	4月	法政大学社会学研究科社会学専攻	修士課程 入学
2016年	3月	法政大学社会学研究科社会学専攻	修士課程 修了
2016年	4月	法政大学社会学研究科社会学専攻	研究生 入学
2017年	3月	法政大学社会学研究科社会学専攻	研究生 修了
2017年	4月	法政大学社会学研究科社会学専攻	博士後期課程 入学
2020年	3月	法政大学社会学研究科社会学専攻	博士後期課程 満期退学
職歴			
2020年	4月	法政大学社会学部「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」兼任講師	(現在に至る)
2020年	4月	法政大学社会学部「ジャーナリズム論A」兼任講師	(現在に至る)
2020年	4月	法政大学経済学部「社会学A・B」兼任講師	(現在に至る)
年	月		

著書	
「核エネルギーのテレビ的表象の系譜学」小林直毅編著『原発震災のテレビアーカイブ』, 2018年3月, 法政大学出版局	
学術論文(うち査読付き1編)	
「メディア・アーカイブとテレビ——テレビ・ドキュメンタリー研究の再考」, 2015年3月, 法政大学大学院社会学専攻委員会, 『社会研究』第45号	
「アーカイブ化されたテレビ番組が描くビキニ事件」, 2018年1月, 日本マス・コミュニケーション学会, 『マス・コミュニケーション研究』第92号	
「記録としてのテレビ番組が描く『核と人間』」, 2019年12月, 法政大学社会学部学会, 『社会志林』第66巻第3号	
学会発表・招待講演	
「核をめぐるテレビ番組の系譜学と、原発震災のテレビアーカイブ」, 2018年6月, 学習院大学, 日本マス・コミュニケーション学会2018年度春季研究発表会	
「記録技術としてのテレビが描く『核と人間』」, 2019年7月, 法政大学, 法政大学社会学部学会第27回社会学コロキウム＝シンポジウム「記憶と記録——東日本大震災・福島原子力発電所事故の経験を引き継ぐために」	
研究報告書・翻訳など	
『『八月ジャーナリズム』が描く被爆と『長崎』で想起する朝鮮人被爆者の記憶』(研究ノート), 2018年3月, 法政大学大学院社会学専攻委員会, 『社会研究』第48号	
特記すべき事項	

ふりがな 氏名	わにべ ゆきたか		
	鰐部 行崇		
専攻	社会学、グローバル社会学		
	2000年	3月	経営学 修士学位取得 (法政大学)
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会			

学歴	
1989年	3月 早稲田大学法学部卒業
2000年	3月 法政大学社会科学部研究科経営学専攻修士課程修了
職歴	
1989年	4月 株式会社東京銀行(現株式会社三菱UFJ銀行)入行(2012年5月まで)
2012年	6月 特定非営利活動法人日本リザルツ入職(2015年7月まで)
学術論文(うち査読付き1編)	
論文「日本におけるマイクロファイナンス研究の課題と展望」アジア・アフリカ研究第58巻第1号、2018年(査読あり)	
研究ノート「新自由主義に侵食されるマイクロファイナンス」アジア・アフリカ研究、第59巻第2号、2019年(査読あり)	
学会発表・招待講演	
「マイクロファイナンスを事例とした多国籍企業の活動に対する一考察——Lスクレアーを手掛かりに」アジア・アフリカ研究所研究会、於法政大学、2018年11月	
研究報告書・翻訳など	
【研究報告】「BRAC研修報告」特定非営利活動法人日本リザルツ(NGO海外スタディプログラム研修報告)、2014年	
論文翻訳及び解説「債務の罫と無条件のベーシックインカム：インドの経験からの教訓」アジア・アフリカ研究第59巻第2号、2019年	
特記すべき事項	

ふりがな 氏 名	こぐれ みな		
	木暮 美菜		
専攻			
社会学	2020年	3月	社会学 修士学位取得 (法政大学)
	年	月	学 博士学位取得 (大学)
所属学会	経営システム学会,地域デザイン学会		

学歴	
2014年	4月 法政大学社会学部メディア社会学科入学
2018年	3月 法政大学社会学部メディア社会学科卒業
2018年	4月 法政大学大学院社会学研究科社会学専攻 修士課程 入学
2020年	3月 法政大学大学院社会学研究科社会学専攻 修士課程 修了
職歴	
2017年	4月 消費者行動論 ティーチング・アシスタント
2019年	4月 社会調査実習 ティーチング・アシスタント
2019年	9月 消費者行動モデリング ティーチング・アシスタント

著書	
諸上茂光, 木暮美菜『地域マーケティングのコンテキスト転換-コンステレーションのためのSSRモデル-』第4章 小説を活用した黒部地域のコンテキスト転換」原田保・石川和男・小川雅司編著, 学文社, pp.90-106, 2019	
堀川三郎, 木暮美菜編著『都市ガバナンスの社会学的実証研究(7)2019年度法政大学社会学部社会調査実習報告書』, 法政大学社会学部社会調査実習質, 2020	
学術論文(うち査読付き3編)	
木暮美菜、諸上茂光『情動の社会的共有動機に着目した悪い口コミへの適切な返信内容の検討』日本経営システム学会誌,36(2),pp.127-136,2019	
Mina KOGURE, Shigemitsu MOROKAMI, "Analyzing the effectiveness of suppliers' empathetic responses for negative comments on viral websites", International Journal of Japan Association for Management Systems, Vol11(1), pp.7-12, 2019	
諸上茂光、木暮美菜『地域ブランディングにおけるコンテキスト構造のモデル化』地域デザイン学会誌, 15, pp.39-57, 2020	
学会発表・招待講演	
木暮美菜、諸上茂光『悪い口コミを行う消費者の動機に注目した適切な返信の共感性について』第57回日本経営システム学会全国研究発表大会(於札幌大学 2016年10月16日)	
木暮美菜、諸上茂光『悪い口コミを行う消費者の動機に注目した適切な返信の共感性について』日本経営システム学会経営モデル研究部会2016年度第5回研究部会(於東海大学 2016年12月3日)	
木暮美菜、諸上茂光『悪い口コミに対する返信の共感性がサービスの満足度評価に与える影響の分析』第58回日本経営システム学会全国研究発表大会(於東京経済大学 2017年5月27日)	
木暮美菜、諸上茂光『悪い口コミに対する企業の返信が他の購買検討者に与える心理的影響の検証』第60回日本経営システム学会全国研究発表大会(於横浜商科大学 2018年5月27日)	
諸上茂光、木暮美菜『地域ブランディングにおけるコンテキストの構造と役割について』地域デザイン学会第7回全国大会(於専修大学 2018年9月1日)	

Mina KOGURE, Shigemitsu MOROKAMI, "Effective replies to negative online comments considering customers' motivations - Comparison between Japanese and Thai-", 18 th International Marketing Trends Conference 2019, Venice International University 2019年1月19日(査読付き国際会議・口頭発表)
木暮美菜、諸上茂光『「インスタ映え」する消費及び投稿を好む消費者の動機の解明』 第62回日本経営システム学会全国研究発表大会(於新潟国際情報大学 2019年5月25日)
諸上茂光、木暮美菜『地域ブランド価値評価モデルの実証的研究』 地域デザイン学会第8回全国大会(於東海大学代々木キャンパス 2019年8月31日)
木暮美菜、諸上茂光『ソーシャルネット時代における事前期待更新モデルの検討— 期待を形成する情報のエントロピーに着目して—』第7回マーケティングカンファレンス2019(於法政大学市ヶ谷キャンパス 2019年10月20日)
木暮美菜、諸上茂光『投稿者に対する共感が「インスタ映え」消費者への評価に与える影響』 第63回日本経営システム学会全国研究発表大会(於神戸学院大学ポートアイランドキャンパス 2019年11月10日)
研究報告書・翻訳など
特記すべき事項